

母親の喫煙で子どもにダメージ

未成年者の喫煙防止へ
東山東小で出前授業

ボランティアの会 影響など解説

【和歌山】 未成年者の喫煙を防止しようと、和歌山禁煙教育ボランティアの会(西畑昌治代表)の出前授業が、和歌山市山東中の市立東山東小学校(岡美穂校長)であった。

同会会員で同市の歯科医、玉置敬一さん(65)が4、5年生計53人と保護者らに、喫煙が体に及ぼす影響を解説。スクリーンにニコチン、タールで汚れた歯や肺の写真などを映し、「母親が喫煙する場合は、3歳児の虫歯は1・9倍に増えると言われています」「たばこ



喫煙の悪影響を児童らに説明する玉置さん
和歌山市立東山東小で

わかやま
健やか

を吸うとストレスが解消できた脳は錯覚してしまうので、最初の一本を吸わないことが大切」と語った。また、たばこの自動販売機に導入された成人識別ICカード「taspo(タスポ)」について、「タスポはみんなの健康を守るために誕生しました。子どもは特にニコチン依存に陥りやすいということが最近分かってきたからです」とその経緯を紹介。「誘われてもちゃんと断ってください。将来、喫煙者はもっと減っているはずですよ」と呼びかけた。4年生の明渡雄己君(9)は「たばこは体にすくく悪くて、怖いものだと分かった。絶対吸いません」と話した。同会は03年、同市医師会学校医部会の会員らが中心となって発足。小児科や内科の医師、歯科医ら9人が市内の小学校で出前授業を行っている。